人と組織を活性化させる秘策 ほめて育てる ❶

※347号から3回にわたって「ほめて育てる」をご紹介します。

西村 貴好 氏
有限会社C's 代表取締役、一般社団法人日本ほめる達人協会 理事長。「泣く子もほめる!」ほめる達人。「すべての人はダイヤの原石。人は人によって磨かれる」をモットーにほめることで人を伸ばし、業績を伸ばす人材育成コンサルタントとして活躍している。
家業の不動産管理会社での業務を通してサービス業で働くスタッフのモチベーションの大切さを知り、覆面調査会社「ホスピタリティ・デザインC's」を企業。2007年より、調査の内容や報告を「ほめること」に特化した。著書に「ほめる生き方」(マガジンハウス)など。
●有限会社C's　http://www.cs-hospita.jp/
●一般社団法人日本ほめる達人協会　http://www.hometatsu.jp/

「ほめる」と人は必ず成長する

あなたも「ほめる達人」をめざそう

あなたは日頃、まわりの人をほめていますか。厳しいビジネスの世界、日々闘いの現場では人を「ほめる」機会はなかなかないよ、とおっしゃる方も多いかもしれません。しかし「ほめる」という行為には、人だけではなく組織をも変革する、ものすごいパワーが隠されています。「ほめる」ことの本来の意味を知り、技術を身につけ、上手に活用することで人も組織も変化します。3回にわたるこの誌上セミナーを通して「ほめる」ことのすばらしさを理解して、ぜひあなたも「ほめる達人」をめざしてください。

「ほめる」は現代人の特効薬

現代のような日本経済が低迷している時代には、努力を確実な成果として手に入ることはなかなか難しいです。これまでビジネスパーソンのやる気の原動力となっていたお給料や地位。しかし、なかなか思うようには上がらないのが現状です。そのため働くモチベーションが低くなりがちです。するとさらに業績は落ち、評価も下がりと、悪循環に陥ってしまうことにもなりかねません。ところが正しい「ほめる」技術を身につけた上司のもとで働くと、人はモチベーションが高まります。今の若い人は、実はお金や地位よりも仕事のやりがいが大きければ、働く意欲が高くなるのです。今こそ「ほめる」が大きな意味を持つ時代というわけです。

「ほめる」と人も組織も変わる!

ではなぜ「ほめる」が人を変えるのでしょう。ビジネスも突き詰めれば人と人との関係。現代社会においてコミュニケーションの重要性は今さらいうことではないかもしれません。でも、このコミュニケーションづくりが意外と難しい。どんなに言葉を尽くして話をしても、相手に理解してもらえないことがあります。それは相手の心が閉じていて、「心のコップ」が下を向いている状態だからです。この状態で正しいことを伝えても、相手の心に気持ちが届きません。
「ほめる」とは、「心のコップ」を上に向けてあげる作業です。相手がこの人のアドバイスを聞いてみようと心の開くために、あなたの言葉に相手が耳を傾けてくれるために、「ほめる」はとても重要な行為。
「ほめる」は相手の耳と心を開かせる魔法のカギなのです。

アイデアが溢れる「ほめ脳」を作る

ほめられる経験を重ねていくと、人はどんどん「ほめ脳」になっていきます。

実は脳というのは究極のエコ装置。すぐに省エネ運転をしたがります。特に嫌なことや辛いことがあると、人は頭を働かせることが億劫になり、思考もストップしてしまいます。そんな怠け癖のある脳を、楽しくこき使う秘訣が「ほめる」にあります。「へぇ、すごいね」「なるほど」「これはどんなチャンスにつながるのだろう」とプラスの声かけをすると、脳はめんどくさいなぁ、と思いつつも一生懸命その答えを探そうとします。アイデアが浮かんだら、それをまた評価する。「ほめる」というのはプラスのアイデアがどんどんと浮かぶ脳を作るということ。「ほめ脳」になれば、やる気が高まり、アイデアが枯渇することがなくなります。

アイデアが溢れる人材を持つ企業や組織は、常に活性化され、プラスの作用が働き、それが成功への道筋を作っていくものです。
「ほめる」は人を変え、組織を変えるということ。それを図式化すると次のようになります。

「ほめる」が苦手なあなたに

「ほめる」ことの良さはわかった。でも「ほめる」ことはなかなか難しい。ついつい、部下のダメな部分ばかりが見えてしまう、という人もいるでしょう。立場によっては責任感や防御本能から、相手に厳しく接してしまうこともあります。しかしこれは仕方のないこと。人間は太古の昔から、危機から身を守るための生存本能があるので、危険なことやネガティブなものを攻撃しようとする意識が働きます。特に立場が上になるほど、会社、組織、チームなどを守るためにマイナス部分に対して危機感を募らせ、ときにはそれが怒りとなり、叱る、という行動に向かってしまうのです。

怒りの感情は本能として仕方がないということを、まず受け止めましょう。その後、部下に対してどんな行動をとればよいかを考えればよいのです。そして目的は、相手を叱ることではなく、相手の行動を変えることだと気づければ、冷静に次の行動がとれるようになるものです。そこに「ほめる」技術が身につけば、きっとあなた自身が変わっていくはずです。

★「ほめる」という行為に興味を持っていただけましたか。
次回348号は、あなたを「ほめる達人」に導くための実践編です。

HUMAN HUMAN プラスは
eふぁみり もあわせてご覧ください!
eふぁみり
http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/